

## 福島駅・東福島駅構内ケーブル切断による列車妨害を許さず、 安全な鉄道を創るために全組合員でたたかい抜く声明！

2009年2月20日17時17分頃、東北線東福島駅構内信号機器室内で防災関係ケーブルが切断され、同日18時08分頃には福島駅構内信号機器室内の通信ケーブルが切断されるという悪質な列車妨害が発生した。山形新幹線をはじめ東北線などで運休や遅延が相次ぎ多くの乗客の足が乱れた。

2月22日付の福島民報では「福島、福島北両警察署は鉄道関係に詳しい同一犯による犯行の可能性もある」と報じ、内部犯行説を匂わせている。

私たちは堂々と言う。JR東労組は国鉄改革以降「鉄道の復権」と「安全な鉄道」を目指して職場から歯を食いしばり今日のJR東日本を創り上げてきた。私たちは鉄道に働く労働者として、今回の悪質極まりない列車妨害を絶対に許すことはできない。

当日は「えん罪・JR浦和電車区事件」控訴審第3回公判が行われた日であり、反転攻勢のたたかいによって支援・連帯の輪は広がり逆転無罪へ向けてたたかいは大きく前進している。まさに、その最中で発生した列車妨害は何を意味するかである。さらには、雑誌「治安フォーラム」では、福島市議会で「取り調べの可視化を求める意見書」が採択されたことを「地方議会でも暗躍するJR東労組」などと記述しJR東労組があたかも「革マルや異常な暴力集団」であるかのように描き出している。

私たちは忘れない。1949年に発生した下山・三鷹・松川事件など、「アカ」とレッテルをはり、たたかう労働組合が標的とされ、弾圧を受け労働組合が破壊され、大合理化と朝鮮戦争へ突き進んだ歴史の事実を。

今日本では、100年に一度と言われる未曾有の経済不況下において、非正規、正規を問わない人員整理など労働者への搾取と収奪が行われている。より一層世界経済の危機は拡大し大失業時代へと突き進んでいる。

私たちJR東労組は、あらゆる妨害・弾圧をはね返し、この悪質極まりない列車妨害を糾弾し全組合員の総力で真の安全風土確立と死傷事故ゼロを目指してたたかい抜くものである。

全組合員みなさん！

平和と環境、人権・民主主義を守り抜くJR東労組破壊を許さず、「えん罪・JR浦和電車区事件」「蒲郡駅事件」の完全勝利を勝ちとり、全ての労働者と固く連帯し真の安全風土確立と平和な社会の実現に向けて全力でたたかおう！

2009年2月24日

東日本旅客鉄道労働組合